

おじいさんとベンチ



年 組 ()

「行ってきます！」

1時30分。ユウヤは、バスていに向か^むって出かけた。今日は友達^{ともだち}のコウタとプールへ行くのだ。バスに乗^のって、2時にプールへ集^{しゅうごう}合することになっている。

途^{とちゅう}中の道で、おじいさんがうずくまっているのが見えた。

「おじいさん、だいじょうぶですか。」

「ちょっとな——、こしがいたくて——。」

「ぼくのかたにつかまってください。」

ユウヤは、かたをかした。しかし、思ったよりも重^{おも}い。

子どもの力でささえきれものではなかった。

でも、この道は人通りも少ないので、しばらく大人^{おとな}が通ることみなさそうだ。

家の人やコウタに連絡^{れんらく}しようかとも思ったが、あいにく今日は連絡^{れんらく}できるものを持^もってきていない。

「あのベンチまで——、連^つれていってくれるかな——。」

おじいさんは、道の先にあるベンチを指^{ゆび}さした。

ベンチは、かなり遠い。そこまで連^つれていくなれば、きっとバスには乗^のれないだろう。

その次のバスが来るのは、30分後だ。

「おじいさん、あのう——。」

「すまんなあ。こんな、小さな子にめいわくをかけるなんて——。」



ユウヤは、どうするべきでしょうか。あなたの考えと理由^{りゆう}を書きましょう。

.....

.....

話し合^あって考えたことを書きましょう。

.....

.....